

“日清食品カップ” 第 37 回全国小学生陸上競技交流大会

監督・競技者注意事項

1. 本大会は、2021 年度日本陸上競技連盟規則ならびに大会要項に準じて行うが、参加者の年齢段階を考慮し、特に教育的配慮のもとに進行する。
2. 監督会議は、9 月 14 日（火）18 時 00 分より、オンライン会議で行う。詳細については、別途案内する。
3. 開会式は 9 月 19 日（日）8 時 30 分から行う。選手団はスタンドにて、間隔をあけて着席し、参加する。
4. 表彰について
 - ① 表彰については全種目 8 位まで行い、賞状授与は B・C 決勝入賞者、コンバインドは 24 位まで行う。
 - 1) 100m A 決勝の入賞者には賞状と副賞、B・C 決勝の入賞者には賞状、その他の出場者には記録証を授与する。

なお、A・B・C 決勝の入賞外（DNS/DNF/失格）の選手については予選時の記録証を授与する。
 - 2) コンバインド A・B の 8 位までの入賞者には賞状と副賞、9 位から 24 位までの入賞者には賞状、その他の出場者には記録証を授与する。
 - ② 8 位までの入賞者の表彰時の服装は、T シャツまたはジャージ（下はハーフパンツ等も可）を着用する。盗撮・迷惑撮影防止の観点から競技用ユニフォームは着用しない。

なお、表彰用のアスリートビブス（シールタイプ）を控え場所で配布するので、入賞者は前面に着用する。
 - ③ 8 位までの入賞者は競技終了後、大会関係者により入賞者待機場所へ誘導する。
 - ④ 表彰式終了後は、大会関係者が入賞者を西ゲートへ誘導し、そこで解散とする。
 - ⑤ 9 位以下（B・C 決勝、およびコンバインド 24 位まで）の賞状は、各県毎にまとめて渡す。配布については、後述（18-⑤）の通りとする。
5. アスリートビブスについて
 - ① アスリートビブスの表記は、都道府県番号とする。
 - ② アスリートビブスは支給されたままの大きさとユニフォームの胸と背につける。（全種目とも、胸・背の両方につける。）
6. 競技者の招集について
 - ① 招集所は下記の通りとする。
 - 1) 100m：100m スタート側のマラソンゲート（2 階周回路 ※柱番号 273～275 付近）に設置する。
 - 2) コンバインド A・B：第 2 曲走路側スタンド下エリア（屋内走路）に設置する。
 - ② 招集は競技日程に記載の招集開始時刻～招集完了時刻の間に確実に完了する。

※招集完了時刻に間に合わない場合は、欠場とみなすので十分に注意する。
 - ③ 招集所には、競技に出られる服装（アスリートビブスを付けた状態）で集合する。
 - ④ トラック競技は、招集所で腰ナンバーカードを受け取り、右腰のやや後方に付ける。
 - ⑤ コンバインド競技（混成競技）の 2 種目目についても同様に招集を行う。招集時間は競技日程に記載の通りとする。

※コンバインド出場者は第 1 種目終了後、招集所エリアにて待機し、第 2 種目目の招集を行う。

但し、休憩時間に限り、競技役員に許可をもらい、招集所エリアを離れる事を許可する。

コンバインド種目に限り指導者は招集所エリアにて、招集完了時間まで、競技者への指示や指導を行うことが

できる。招集所エリアに入れるのは監督・コーチ、支援コーチのうち、2名とする。

※招集所エリアに入れる指導者用に指定のマーク（2枚）を配布する。

※ID規制があるため、指導者は必ずIDおよび指定のマークをつけて入場すること。

※招集所エリアで、水分補給は可能、食事は不可とする。

- ⑥ コンバインド競技に出場する競技者は、混成競技系の指示に従う。
- ⑦ 招集所への競技者および⑤に記載した指導者以外の入場は禁止する。

7. トラック競技

- ① 競技に際してはシューズ又はオールウェザー用のスパイクを使用すること。（スパイクのピンは全種目9mmを超えないものとする。）
- ② レーン順はプログラムに記載のとおりとする。
- ③ 100m（5年・6年）は、予選をタイムレースで行い、A決勝を予選上位8番までの競技者、B決勝を予選9番～16番までの競技者、C決勝を予選17番～24番までの競技者とする。決勝ボーダーライン上で1000分の1まで同タイムが出た場合、指導者による抽選を行う。
- ④ スタートはクラウチングスタートを原則とする。（スターティングブロックは使用しなくても良い。）
- ⑤ スターティングブロックは競技場に備え付けのものを使用する。
- ⑥ スタートの合図はイングリッシュコールで行う。
- ⑦ 同じ競技者が2回不正スタートをした場合、その競技者は失格とし、オープン参加として走る。
- ⑧ 危険防止のため、各走者はゴール後も自分のレーンを走り減速する。
- ⑨ 80mハードルは、男女ともにハードルの高さ70cm、ハードル間7m、ハードルの台数9台、スタートから第1ハードルまで13m、最終ハードルからフィニッシュまで11mとする。

8. フィールド競技

- ① 競技に際してはシューズ又はオールウェザー用のスパイクを使用すること。（スパイクのピンは全種目9mmを超えないものとする。）
- ② 試技順はプログラムに記載のとおりとする。
- ③ 走高跳
 - 1) 1・2組に分かれ、第1曲走路側に並んで設けられたA（1組）・B（2組）ピットの2カ所で行う。
 - 2) 走高跳の跳び方は「はさみ跳び」とし、脚が最初にバーを越え、マットへの着地は足裏からとし、背や腰などからの着地は無効試技とする。判定は競技役員に従う。
 - 3) 走高跳は、自分が申告した高さから試技を開始し、2回続けて失敗した時点で終了とする。パスを行なうことができる。
 - 4) 最初の試技の高さ、およびパスは、ピット内にて練習時に競技役員に申告する。
 - 5) バーの上げ方は次のとおりとする。

男子	1m10(練習)	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	以降3cmずつ
女子	1m05(練習)	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	以降3cmずつ

- ④ 走幅跳
 - 1) 1・2組に分かれ、A（1組）・B（2組）ピットで行う。（Aピット：トラック側・Bピット：スタンド側）
 - 2) 全員2回の試技とする。
- ⑤ ジャベリックボール投
 - 1) 第2曲走路側を競技場所とする。助走距離は15m以内とする。
 - 2) ジャベリックボールは競技場に準備されたものを使用する。

3) 競技場に準備してある炭酸マグネシウムをボール先端につけて（落下地点に痕跡を残すため）、ボール本体を持ち、オーバーハンドスローで投げることにする。 *羽だけを持って投げることは禁止する。

4) 全員 2 回の試技とする。

9. コンバインド競技

① 本大会におけるコンバインド競技は次の順で行う。

コンバインド A (男子) : 走高跳、80mハードル

コンバインド B (男子) : 走幅跳、ジャベリックボール投

コンバインド A (女子) : 80mハードル、走高跳

コンバインド B (女子) : ジャベリックボール投、走幅跳

② 各種目の得点は、『JAAF 小学生混成競技得点表 (2020)』による。得点は男女共通とする。

※『JAAF 小学生混成競技得点表 (2020)』は日本陸上競技連盟ホームページにて公開。

③ 80mハードルと走幅跳における風速は得点・順位に影響しない。

④ 100 点以下の記録は、すべて 100 点とする。

⑤ スタートまたは試技を行ない、参考記録 (80mハードルにおいて不正スタートとなりオープン参加時の記録)、記録無し (DNF/NM)、失格の場合は、50 点 (参加点) とする。

⑥ スタートまたは試技を行なわない場合は、欠場とし、0 点とする。

⑦ 最初の種目で欠場した競技者は、2 種目目には出場できない。

⑧ 2 種目の合計得点で順位を決定する。合計得点と同点の場合は、同順位とする。

10. 記録・番組編成結果の発表

① 大型映像および大会ホームページ (日本陸連 HP 内) に掲載する。

大会ホームページ <https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1569/>

② 100m 決勝の番組編成結果については、①に加え【マラソングート招集所入り口】に掲示板を設置し、掲出する。

11. トラック競技参加者の荷物の運搬について

① 個人種目

1) 100m 予選・80mハードル (コンバインド A) は、荷物の運搬はしない。大会関係者が競技者を招集所まで誘導し、荷物を持って退場する。

2) 100m A 決勝は、補助員が入賞者待機場所に運搬する。

3) 100m B・C 決勝は荷物の運搬はしない。大会関係者が競技者を招集所まで誘導し、荷物を持って退場する。

12. 入賞者 (8 位まで) の誘導について

① 各種目 8 位までの入賞者は、表彰のためインタビュー室を経由して大会関係者が入賞者待機場所へ誘導する。

② コンバインド (A・B) は 2 種目目終了後、招集所エリアで待機し、8 位までの入賞者確定後、8 位までの入賞者は大会関係者が入賞者待機場所へ誘導する。それ以外の競技者はそこで解散とする。

③ 表彰式終了後に大会関係者が入賞者を西ゲートまで誘導し、そこで解散とする。

13. 抗議について

100m 招集所横に「抗議受付 (TIC)」を設置する。受付後は競技役員の指示に従い、「抗議者控え室 (219 室)」に待機する。

抗議は、予選では結果の正式発表後 15 分以内、その他は結果の正式発表後 30 分以内に行わなければならない。

14. 事故防止と競技場の使用について

① 練習は指定された場所・時間で競技役員の指示に従って行き、「事故防止」に万全を期す。

《9 月 18 日 (土) 大会前日の練習について》

練習時間 11:30 ~17:30

- | | | |
|--------|------------|-----------|
| 1)主競技場 | 100m | ホームストレート側 |
| | 80mハードル | バックストレート側 |
| | 走高跳 | フィールド内 |
| | 走幅跳 | 走幅跳ピット |
| 2)投てき場 | ジャベリックボール投 | |

※9月18日(土)のみ、第2曲走路側スタンド下エリアを、「競技者休憩所」として開放する。
ただし、練習、場所取りは不可。選手、監督・コーチ、支援コーチのID着用者のみが入場可。

9月19日(日)は使用できない。

《9月19日(日)大会当日の練習について》※主競技場での練習は行えない。

練習時間 ①補助競技場 7:30 ~14:00

- 1)体操等のウォーミングアップはバックストレート側のトラック外側部分で行う。
フィールド内の「芝」部分への立ち入りは禁止する。
- 2)競走路の使用は次の通りとし、逆走は禁止する。
 - ・1~2レーン：ジョギングで使用。(ジョギングは外側の芝生も使用可。)
 - ・3~4レーン：流して使用。
 - ・5~8レーン：(ホームストレート側)100m種目(スタート練習)で使用。
 - ・5~8レーン：(バックストレート側)80mハードル種目で使用。
- 3)走高跳、走幅跳のピットは使用可能。

②投てき場 7:30~9:00

※男女共に朝の時間帯のみ練習可能とする。男子は1種目終了後に行き来しての、
使用はできない。

- ② 招集所待機中の練習等は禁止とする。
- ③ 練習場にハードル等の持ち込みはできない。※ハードルは主催者側で準備した物を使用すること。
- ④ 大会当日の練習は補助競技場と投てき練習場(ジャベリックボール投)で係員の指示に従って行う。
- ⑤ スタンド裏コンコースでの練習は禁止とする。
- ⑥ 練習場に立ち入りのできる監督・コーチ、支援コーチは各都道府県で最大6名までとする。
※配布されたIDを必ず着用のこと。なお、IDを他者に貸与することはできない。
※曲走路、ピット内の立入は競技者のみ、監督・コーチ、支援コーチは立入禁止。
- ⑦ 練習場の使用時間、使用方法は監督・競技者注意事項に従うこと。
- ⑧ 更衣については、招集所横の競技場内に更衣室を準備する。貴重品、荷物については各自で管理すること。

15. ケガ等への対応

- ① 救護については競技場内の医務室を使用する。応急処置は大会本部で行うが、以後、保険適応外の責任は負わない。
- ② 監督・コーチ(支援コーチは除く)、競技者は国内旅行傷害保険に加入する。

16. 観客席(スタンド)への入場と写真・ビデオ等の撮影について

- ① 大会当日は、事前に入場申請を行い、本大会主催者より許可された者(各都道府県16人まで)のみ、スタンドに入場することができる。入場者は受付後、目印(リストバンド等)を付ける。
- ② 目印(リストバンド等)を付けた者の撮影は可能とするが、目印が確認できない場合や、不適切な撮影が認められた場合には、警備員もしくは大会関係者よりお声掛けする場合がある。

17. その他

- ① 開会式は、ウォーミングアップ中の競技者、指導者を除く選手団が、スタンドにて参加する。
- ② 閉会セレモニーは全選手団（競技者・指導者）とも参加とする。
- ③ 横断幕は1階スタンドの各都道府県に割り当てられた席の前で、指定された柵のみに掲出を認める。
- a④ スタンド裏コンコースに、各都道府県の控え場所を割り当てる。コンコース内には、テント等、障害物となるものの設置や、壁面・柱・柵への掲出物は、いかなる用途・サイズであっても設置を不可とする。
- ⑤ 記録証・リザルトについては大会終了後に各都道府県選手団監督へ郵送する。ただし、大会終了後に宿泊をする都道府県については、翌日の朝食の際に各選手団のテーブルに配布する。
- ⑥ 競技場（主競技場、補助競技場、投てき練習場）のトラックおよびフィールドには水以外の飲食物の持ち込みは禁止する。
- ⑦ ゴミは各自持ち帰りを原則とする。
- ⑧ 感染症拡大防止対策については別紙を参照する。なお、熱中症にも十分に注意すること。
- ⑨ 本注意事項のうち、各項目とも変更になる場合がある。

以上